

シチュエーション：留学前

ケース① 世界でいちばん不運で幸せな私 (2003)¹

プロローグ

「もっとレベルの高い大学に行きたいんです」。春樹の目は真剣だ。レベルの高い大学って言うってもねえ……。面倒はゴメンだわ。美咲は戸惑いながら、心でそう呟いた。

「具体的にどこか考えてるところはあるの？」
「はい。アメリカだと絶対ここがいいと思うんです」
「University of Michigan? ミシガン大学ね。確かに有名校ね」
「ええ、憧れだったんです。将来は国連に勤めるのが夢なので、留学して実践的な英語力を付けようと思って。それも高いレベルの」
「ふーん、そっか」
「行くならここって決めてました」
「……」

思わぬ春樹の熱意に、美咲は圧倒されっぱなしだ。

中堅職員として

大学の職員になって既に6年。美咲は今の仕事にますます満足していた。地方の公立大学なので、給料はそこそこだが、福利厚生はまずまずだ。他に何か欠けているというほどではない。加えて、勤務先の名前は地域の人なら誰もが知っていて、自己紹介の時だって恥ずかしくない。そう、いわゆる「安定」というやつだ。

最初に配属されたのは本部の秘書課だった。そこで役員の補佐を2年。3年目に施設管理部へと異動になり、そこでも同じく2年。堅実な仕事ぶりだったと自負している。どちらの職場でも、特に何かの専門性が要求されることはなかった。絵に描いたような9時～5時仕事。残業は殆どない。

5年目を迎えた昨年、留学支援課へと異動になった。5年目と言えば、若手と呼ばれた時代を過ぎ、そろそろ中堅へと差しかかる年代だ。いきおい、周囲の期待も従来より大きくなる。

加えて、留学支援課は学生と直に接する部署でもある。せっかく大学という職場に入ったのに、これまでは学生と接することが少なかった。いや、殆どなかったと言っても良い。そんなわけで、美咲は当初、留学支援課への異動をかなり前向きに受け止めていた。

望んだ仕事ではない

しかし、最初の3か月で美咲は思い違いをしていたことに気付いた。最初の月こそ、学生と触れ合える、大学らしい職場だと気分も高揚していたが、徐々に限界を感じるようになった。社会人としての自分に、だ。

相手が生身の人間であることを、美咲は留学支援課での1年で思い知らされた。学生一人一人、留学にかける思いや将来の夢、今大学で置かれている状況、さらには家庭の経済状況など、実に多種多様なのだ。そこで求められるのは、これまでのようなマニュアル通りの定型業務ではなく、個々の学生に応じた臨機応変なアドバイスではないか。美咲はそう気付いた。

けれど、では自分に何が出来るのだろうか。第一、自分には学生時代に海外留学をした経験など一切ない。したいとも思わなかった。語学にも自信がないし、国際的な仕事に憧れたこともない。母校のキャンパスに留学生がいたことは知っているが、話しかけたことなど一度もない。だから外国人の友達もいない。

¹ 本ケースは著者自身の経験や伝聞をモチーフに著者が創作・脚色した

熱心に勉強したかどうかだって怪しいものだ。今でこそ大学に勤めてはいるものの、知っているのは母校とこの大学のことだけ。他の大学のこととはよくわからない。ましてや、行ったこともないよその国の大学なんて、制度も何もわからない。

こうした状況から、美咲はいつしか現状をこう表現するようになった。「留学支援なんて、私が望んだ仕事じゃない。もっと私にあった仕事があるはずだ」と。

春樹の留学について

春樹が初めて留学支援課を訪れた日の夜。いつものように自宅で夕食を終えた美咲は、少し冷静になって今日のことを振り返ってみた。普通、うちの学生は大学が予め用意した幾つかの留学プログラムについて質問して来ることが多い。それらのプログラムは全て、うちの大学が比較的長い時間をかけて関係を構築した、海外の提携校との間で提供されるものだ。

つまり、殆どの学生はそれ以外の選択肢を考えてもみない。大学は世界に何千、何万とあるというのに。美咲は今更ながらそのことに気付いて愕然とした。そうか、春樹はそうした選択肢にも一応目を通し、自分の行きたい場所がそこにあることがわかったんだな。その上で、自分の力でミシガン大学を見つけて来たんだな。偉いな。

そんな風に思いを巡らすと、美咲は自分の不甲斐なさに改めて気付かされた。春樹君のような子は是非とも助けてあげたい。しかし、関連する専門知識を持たない自分に、一体何が出来るというのだろうか。春樹は一週間後にまた相談に来ると言っていた。さて、どんな風に対応するのがいいのだろうか。知らず知らずのうちに夜は更けて行く。

検討課題（予習用宿題）

（１） 大学職員とはどのような職種で、どのような仕事をしているのか、事例を挙げて具体的に説明して下さい。

（２） 大学職員のやりがいとは何でしょうか。

（３） 大学職員という仕事の魅力的な部分、そうでもない部分について、思うところを自分なりにまとめてみましょう。想像でも構いません。

（４） もしあなたが美咲だったら、留学支援課に異動になった後、一番に何をしますか。その次には何をしますか。

（５） あなたが美咲だったら、春樹に何とアドバイスしますか。考えをまとめてみましょう。